

瞳かがやく下條

平成22年度～平成31年度
下條村総合計画書

瞳かがやく下條

平成22年度～平成31年度
下條村総合計画書



長野県
下條村

長野県 下條村

瞳かがやく下條

平成22年度～平成31年度
下條村総合計画書



長野県 下條村



村木 ……… ハナノキ



村花 ……… コスモス

村民憲章

わたくしたちの下條村は、
下條山脈の東麓に拓けた扇状台地に位置する、
豊かな自然に恵まれ、歴史と伝統に培われて
発展してきた、文化の香り高い村であります。
わたくしたちは、この下條村民であることに
大いなる誇りと自覚をもち、限りなき明日への
飛躍をめざしつつ住みよいむらづくりのため、
ここに村民憲章を定めます。

1. 自然を愛し、緑と水の美しい村をつくります。
1. 教育と文化を高め、創造力に富む村をつくります。
1. 思いやりの心をもち、福祉の村をつくります。
1. 働くことに生きがいをもち、豊かな村をつくります。
1. あいさつを交わし合う、明るい村をつくります。

SHIMOJO 南信州下條村 ガイドマップ GUIDE MAP



■コスモスの湯



■リフレッシュパーク下條



■道の駅「信濃路下條」



■入登山神社



■大山田神社



■辛味大根

■南アルプスと柿の木



— 柔軟な発想と転換 —

平成16年2月26日の「自立宣言」以降、下條村は『生き生きと生活できる村づくり』をスローガンに村民の新たな発想と知恵を結集し、魅力ある村づくりを目指し、各種事業に取り組んできました。この5年間で、「いきいきらんど下條」「コスモホール」など大型事業が完成したことによって、大規模なハード事業は概ね完了したと言えます。

本計画の見直しにあたっては、村民の身近な生活や各施設を機能的に結びつけ最大の効果が発揮できるよう重視し、「個性豊かな自立の村」を目指し、安心安全で住みよい住環境整備や若者定住が益々進み魅力溢れるような環境づくり、さらには、子供からお年寄りまで村民全員参加のいきいきとした村づくりが行えるような計画が実行していけるよう願っております。

平成22年3月

下條村長 伊藤喜平

目 次

第1部 序 論

第1章 総合計画の策定にあたって	10
■基本構想	10
■基本計画	10
■実施計画	10
第2章 下條村の概要	11
第1節 沿革	11
第2節 地理的条件	11
第3節 気候・人口と世帯の動き	11

第2部 基本構想

第1章 村の将来像	16
第2章 人口の動向と将来	16
第1節 人口の動向と将来	16
第2節 産業構造の動向と将来	18
第3章 振興の方向（計画の理念）	19
第1節 機能的で快適な、活力あるむらづくり	19
第2節 安心安全で、魅力溢れるむらづくり	19
第3節 みんなが集い、新たな発想で個性が映えるむらづくり	19
第4節 環境に配慮し、自然と調和したむらづくり	19
第5節 ふれあいと交流、地域の特色を生かしたむらづくり	19

第3部 基本計画

第1章 土地利用計画	22
第2章 交通・通信・防災計画	23

第3章 保健・福祉・医療計画	32
第1節 高齢者対策	32
第2節 地域包括支援センターの充実	33
第3節 介護保険サービス	33
第4節 児童・障害福祉の推進	34
第5節 保健活動の強化	34
第6節 医療体制の充実	37
第4章 教育計画	41
第1節 学校教育の充実	41
第2節 生涯学習の推進	42
第5章 環境計画	46
第1節 環境の衛生と美化	46
第2節 上下水道の整備	47
第3節 環境の保全・消費者対策	49
第6章 産業振興計画	51
第1節 農業の振興	51
第2節 林業の振興	54
第3節 観光の振興	56
第4節 工業の振興	61
第5節 商業の振興	62
第6節 コミュニティ活動や村づくり活動の振興	63
第7章 行財政計画	64
第1節 行政	64
第2節 財政計画	65

第 1 部

序 論

第1章 総合計画策定にあたって

下條村では、計画的運営の指針とするため、平成12年に「第4次下條村総合計画書」を策定し、各般にわたる施策を実施し平成21年度をもって目標年度が終了します。

本年、下條村は村制120周年を迎えた。21世紀を迎えたいま、地球環境問題をはじめ、高度情報化、国際化、人口減少と少子・高齢化など、私たちを取り巻く課題は複雑化し、従来の価値観や方法だけでは解決できなくなり、新しい視点が求められるようになってきている。一方、地域社会においては、地方分権への流れとともに、住民のニーズも多様化し、これからは住民自らの知恵と力で、新しい地域づくりを目指していくことが望まれている。

当村では、いち早く『自立』を選択し、村民総参加のむらづくりを行ってきた。今後も村民のためにさらに何が必要か、どんな事業が求められているかを見定め計画を行うことが必要とされている。

この総合計画は、21世紀を一步一步踏み出し下條村のあるべき姿に向け、住民一人一人の知恵を結集し、住みよい地域社会をつくっていくための、その基本的な考え方、目標を新たな行政運営の指針とするために「第5次下條村総合計画書」を策定した。

■基本構想

基本構想では、むらづくりの根本にあるものとして基本理念を描くとともに、むらづくりに取り組む姿勢を示すもので、計画期間は、平成22年度から10年間とし、目標年度を平成31年度とする。

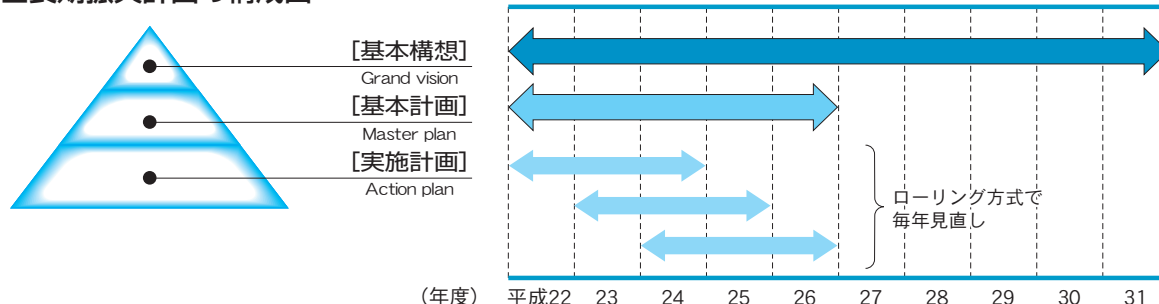
■基本計画

基本計画では、基本構想に掲げた基本理念の実現に向けて実施する施策を体系的に定めるもので、前期基本計画期間は、平成22年度から5年間とし、目標年度を平成31年度とする。

■実施計画

実施計画は、基本計画に掲げる諸施策を計画的に実施するもので、財政的検討などを加え具体的な3カ年計画として別途策定し、毎年度ローリング方式により見直しを行い、実施に移していく。

■長期振興計画の構成図



【ローリング方式】実施計画の見直し方法。計画と現実の間に生じる差異を埋めるもので、毎年見直しを行う方法。

第2章 下條村の概要

第1節 沿革

下條村は、下伊那に2社しかない式内社の大山田神社が置かれ、奈良時代以前から拓かれた村です。

村名は、室町時代のはじめ甲斐の国（現・山梨県）からこの地に入り、室町中期から戦国期に全盛を極めた下條氏に由来する。

江戸時代14村あった村が明治8年、合併の気運が高まり、睦沢村(むつざわむら)と陽阜村(ひさわむら)の2村となった。その後、有力町村を造成することを趣旨に県の町村合併案が策定され、これに基づき、明治22年4月1日両村が合併して現在の下條村が誕生し120年を迎えた。

第2節 地形・地勢

下條村は、長野県の最南端下伊那郡のほぼ中央に位置し、飯田市また三遠南信自動車道天龍峡ICから車で5分の位置にある。

東は天竜川を隔てて泰阜村、北は阿知川、鶯巣川により飯田市、阿智村と、西は下條山脈により阿智村浪合を境とし、南は阿南町と接している。

総面積は、37.66km²、周囲30.06km、標高332mから828mの間に34の集落が散在している。

地形は、下條山脈を水源にして、加竜、白又、牛ヶ爪、南沢、郷敷沢川の流れが緩傾斜を東に向かって流れ下り、東部村境を流れる天竜川に注いでおり、これらの諸流が平坦部を侵食し、各集落を自然に形成している。

地質的には、陽阜(ひさわ)地区の富草寄りの東南部は三紀層からなり、その他は花崗岩を主体としている。

第3節 気候

気候は、内陸性で、一日及び冬と夏の気温差が激しい気候です。

降霜は10月下旬から4月下旬頃までで、最深積雪が20cmを超えることはほとんどありません。

人口と世帯の動き

1. 人口と世帯数

表1 人口・世帯数の推移

(単位：人)

年 度	人 口	世帯数	人口増減		世帯増減	
			増減数 (人)	増減率 (%)	増減数 (世帯)	増減率 (%)
S35	5,106	1,056				
S40	4,563	1,025	△543	△10.6	△31	△2.9
S45	4,057	1,008	△506	△11.1	△17	△1.7
S50	4,000	992	△57	△1.4	△16	△1.6
S55	4,078	990	78	2.0	△2	△0.2
S60	4,049	991	△29	△0.7	1	0.1
H2	3,859	983	△190	△4.7	△8	△0.8
H7	4,004	1,023	145	3.8	40	4.1
H12	4,075	1,086	71	1.8	63	6.2
H17	4,210	1,158	135	3.3	72	6.6
H20	4,220	1,287	10	0.2	129	10.0

【国勢調査】※H20は10/1の住基データより算出

表2 人口動態の推移

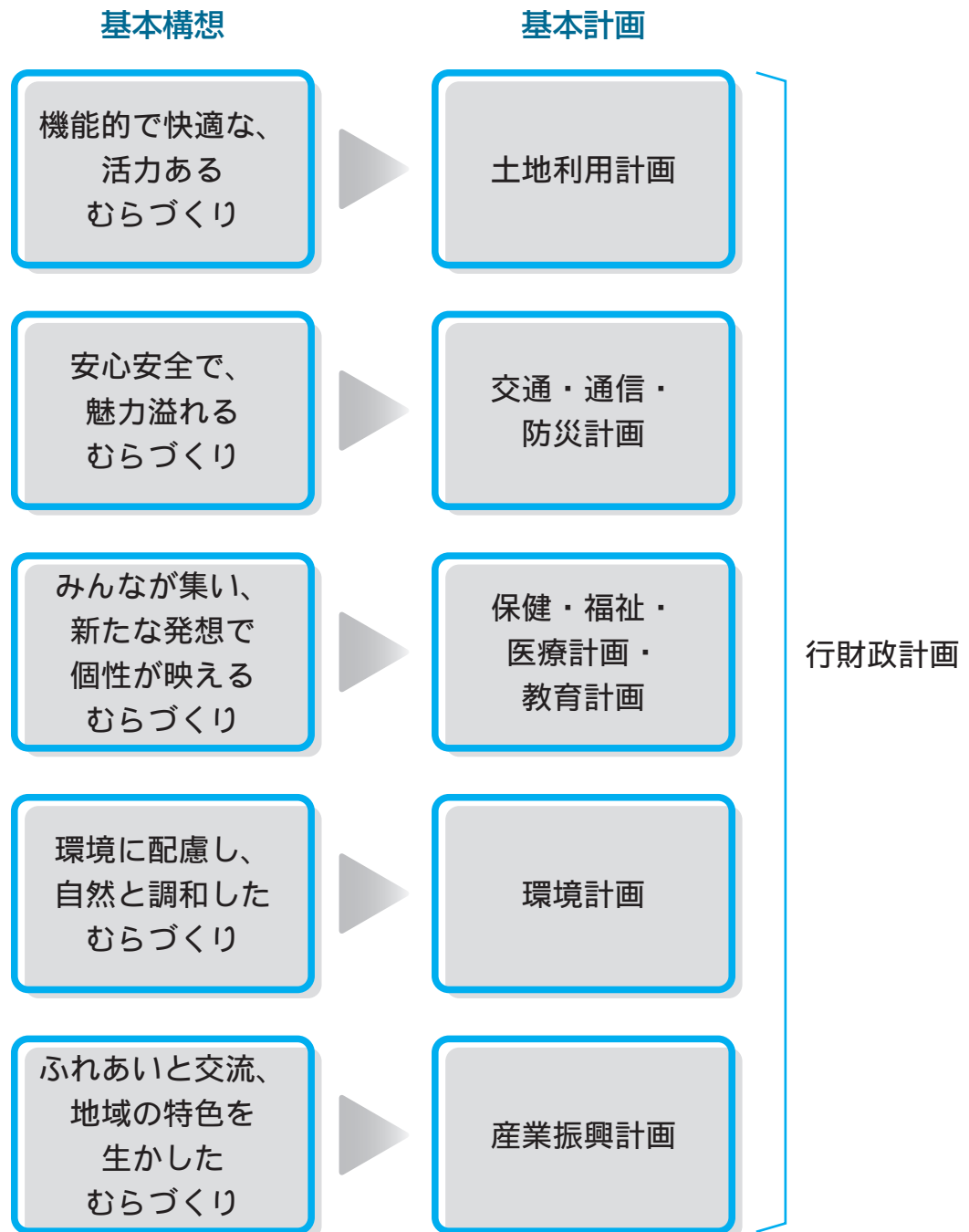
(単位：人)

年 度	総 計	自然動態			世帯増減		
		出 生	死 亡	増 減	転 入	転 出	増 減
H11	10	40	47	△7	135	118	17
H12	37	47	43	4	144	111	33
H13	70	44	47	△3	167	94	73
H14	20	42	45	△3	153	130	23
H15	△2	44	49	△5	133	130	3
H16	52	61	46	15	145	108	37
H17	△9	47	53	△6	143	146	△3
H18	35	36	53	△17	179	127	52
H19	△49	48	62	△14	109	144	△35
H20	△2	33	64	△31	149	120	29

【住民基本台帳】

総合計画の体系図

スローガン
『瞳かがやく下條』



第 2 部

基本構想

第1章 村の将来像

いきいきと輝き、お互いの心がふれあい助け合うことによって住み良い下條村となるよう、むらづくりの合言葉として、次のシンボルテーマを掲げる。

『瞳かがやく下條』

そして、この将来像の達成へ向けた5つの理念と振興方向をまとめた。

むらづくりの理念と振興方向

機能的で快適な、活力あるむらづくり

安心安全で、魅力溢れるむらづくり

みんなが集い、新たな発想で個性が映えるむらづくり

環境に配慮し、自然と調和したむらづくり

ふれあいと交流、地域の特色を生かしたむらづくり

第2章 人口の動向と将来

第1節 人口の動向と将来

当村の平成17年国勢調査人口は4,210人であり、平成2年より351人増加している。これは、いままでに行った分譲地や村営住宅の整備、子育てに安心を持てる生活環境づくりや、教育環境の整備による成果のあらわれといえる。

また、5歳階級別人口ピラミッドをみますと、20歳～24歳の階級以外は各階級においてバランスがとれており、理想的な構成となっている。

今後の人口予測として、コーホート要因法により算出した結果、平成27年には4,199人平成32年には4,149人と現在の人口より減少すると予想されるが、今までの住民基本台帳によるデータや今後の施策を行うことによって独自に試算を行い、平成32年には4,288名で増加すると予測した。

1. 人口の規模と産業のあり方

表1 人口及び世帯数の推移

	S.35	S.40	S.45	S.50	S.55	S.60	H.2	H.7	H.12	H.17
世帯数(戸)	1,056	1,025	1,008	992	990	991	983	1,028	1,086	1,158
人口(人)	5,016	4,563	4,057	4,000	4,078	4,049	3,859	4,004	4,075	4,210

資料：下伊那郡市勢要覧

表2 年齢別人口及び割合

	S.60		H.2		H.7		H.12		H.17	
少年人口	727人	18.0%	634人	16.4%	640人	16.0%	682人	16.7%	735人	17.5%
生産年齢人口	2,551人	63.0%	2,325人	60.2%	2,317人	57.9%	2,280人	56.0%	2,266人	53.8%
老年人口	771人	19.0%	900人	23.3%	1,047人	26.1%	1,113人	27.3%	1,209人	28.7%
うち75歳以上	330人	8.2%	405人	10.5%	431人	10.8%	548人	13.4%	712人	16.9%
総数	4,049人		3,859人		4,004人		4,075人		4,210人	

資料：S.60は毎月人口異動調査(各年10月1日) H.2～H.17は国勢調査

表3 人口予測

		H.12	H.17	H.22	H.27	H.32
全人口	計画時(住基データより予測)	—	—	4,246人	4,267人	4,288人
	計画時(コーホート要因法)	—	—	4,241人	4,199人	4,149人
	実行値	4,075人	4,210人	—	—	—
65～74歳	計画時(コーホート要因法)	—	—	452	473	452
	実行値	565	497	—	—	—
75歳以上	計画時(コーホート要因法)	—	—	793	781	806
	実行値	548	712	—	—	—
高齢者合計	計画時(コーホート要因法)	—	—	1,245	1,254	1,258
	実行値	1,113	1,209	—	—	—

平成17年
5歳階級別
人口ピラミッド

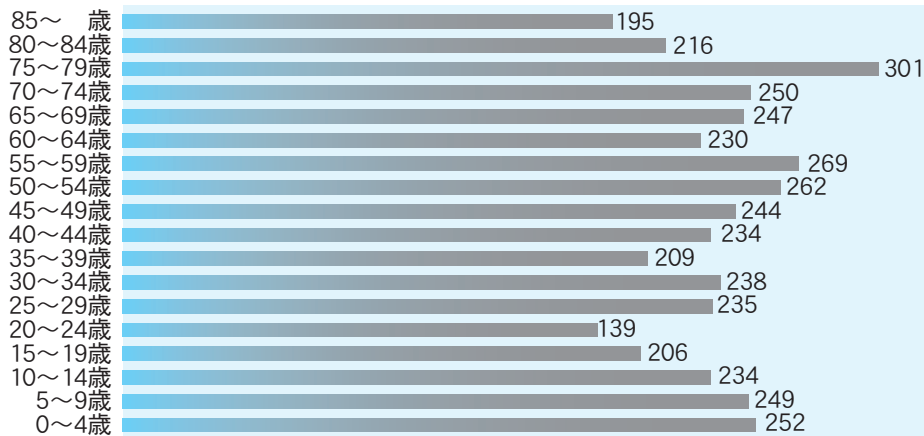
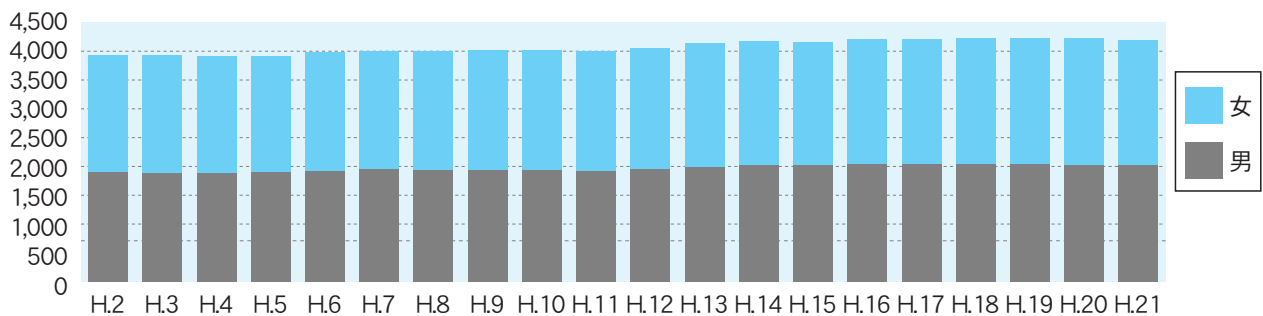


表4 住民基本台帳データ

各年10月1日(単位:人)

	H.2	H.3	H.4	H.5	H.6	H.7	H.8	H.9	H.10	H.11
男	1,894	1,889	1,884	1,893	1,924	1,947	1,939	1,939	1,928	1,926
女	2,040	2,033	2,029	2,021	2,056	2,059	2,049	2,071	2,085	2,066
人口	3,934	3,922	3,913	3,914	3,980	4,006	3,988	4,010	4,013	3,992
	H.12	H.13	H.14	H.15	H.16	H.17	H.18	H.19	H.20	H.21
男	1,954	1,996	2,018	2,015	2,035	2,033	2,041	2,031	2,022	2,016
女	2,091	2,145	2,155	2,146	2,181	2,171	2,186	2,191	2,198	2,174
人口	4,045	4,141	4,173	4,161	4,216	4,204	4,227	4,222	4,220	4,190



第2節 産業構造の動向と将来

1. 就業人口の推移

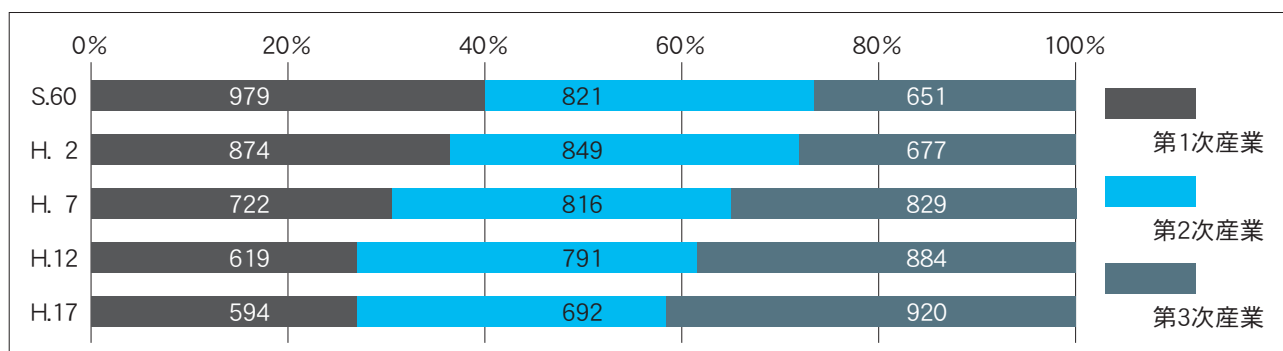
現在の就業人口割合は、昭和60年から比較してみると、第1次産業で13%減、第2次産業も2.1%の減、第3次産業は15.1%増加しており、平成17年までは、第1次産業の割合が減少し、第3次産業が増加傾向にある。

また、就業人口についても、第1次産業は、昭和60年から385人減り、第2次産業も129人減となっているが、第3次産業は269人増加している。全体では2,451人から2,206人減って、2,206人となり、就業者は年々減少傾向にある。

表5 産業別就業人口の推移

	S.60		H.2		H.7		H.12		H.17	
	実数(人)	比率(%)	実数(人)	比率(%)	実数(人)	比率(%)	実数(人)	比率(%)	実数(人)	比率(%)
第1次産業	979	39.9%	874	36.4%	722	30.5%	619	27.0%	594	26.9%
第2次産業	821	33.5%	849	35.4%	816	34.5%	791	34.5%	692	31.4%
第3次産業	651	26.6%	677	28.2%	829	35.0%	884	38.5%	920	41.7%
計	2,451	100.0%	2,400	100.0%	2,367	100.0%	2,294	100.0%	2,206	100.0%

資料：国勢調査



2. 就業人口の予測

平成12年と平成17年の国勢調査を比較すると、第1次産業の減少は変わらず、第2次産業においても、建設業従事者の減少により3.1%の落込み、第3次産業においては、3.2%増加した。今後も農業・林業の高齢化による担い手不足はますます深刻になり、第1次産業の減少は避けられない状況にある。また、第2次産業の建設業についても公共事業はさらに縮小傾向にあるため増加は見込めないが、製造業においては平成22年から村内で新しい工場も稼働することから増加が見込める。第3次産業は、近年の全体の割合からすると増加傾向ですが、就業人口については、ある程度横ばいで推移すると予想される。

第3章 振興の方向（計画の理念）

第1節 機能的で快適な、活力あるむらづくり

下條村は、総面積37.66km²、周囲30.06kmと狭い、また標高差も496mと急峻である。この地形を生かした事業を行うことで、有効的な土地利用が可能となる。

また、散在する34集落で、現在、特色を生かした行事や事業も活発に行われている。今後もこの機運を高め、後押ししていけるような事業を精査し執行を行える村づくりをすすめる。

第2節 安心安全で、魅力溢れるむらづくり

村では、情報通信の基盤整備を行ったことにより、村内の情報格差は解消された。さらに、防災行政無線のデジタル化や音声告知システムの導入により、有事の際に全村民への伝達手段が可能となった。今後も加速する情報社会を見据えた事業執行や活用、大規模な災害から財産を守る施策が必要とされている。また、道路網においてもさらに身近な路線の改良・改修や、交通量の増加に伴う2次改良を行うことにより、地域格差の解消が図られる事業を行っていく。

第3節 みんなが集い、新たな発想で個性が映えるむらづくり

近年、めまぐるしく変化する地域経済は、先行きが見えず不透明である。国の施策によっては今後さらに景気は悪化する可能性がある。このような状況の中で、村民一人一人が共通の危機感を持ち、あらゆる角度からお互いに助け合い課題を乗り越え活動を行うことで、新たな発想やユニークな意見が生まれ、地域の意欲が盛り上がる活動をすすめる。

第4節 環境に配慮し、自然と調和したむらづくり

21世紀の地球全体の課題として、自然環境の保全、資源の有効活用、公害防止などの環境問題が挙げられる。自然豊かな下條村を今後も公害発生防止、乱開発の抑制、リサイクル等、今後も村民全体に周知・浸透し意識の向上をすすめる取組みを行っていく。

第5節 ふれあいと交流、地域の特色を生かしたむらづくり

週休2日制が定着したことにより、週末には多くの観光客が訪れるようになった。道の駅そばの城でも来場者数が年間15万人前後と、これからも交流人口は増加することが予想される。来村された方が『また来たい』『よかった』と言っていただけのおもてなしができる地域づくりを進めていく。また、TV放送によって全国的にも有名となった【下條村】を今後もより多くの皆様に知っていただけるような取組みも行っていく。

